

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第122版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵



全国から300名を超える先生方がこの2回の研修に参加され、学びを深めていらっしゃいました。

実践園報告 ～伝え方の面白さ～

この夏、保育環境研究所ギビングツリー主催『保育環境セミナー』の第50回・第51回が開催されました。セミナープログラムの一つである『実践園報告』では、事前に決められた発表園から、保育実践や工夫、取り組みなどを発表していただきました。

この夏、保育環境研究所ギビングツリー主催『保育環境セミナー』の第50回・第51回が開催されました。セミナープログラムの一つである『実践園報告』では、事前に決められた発表園から、保育実践や工夫、取り組みなどを発表していただきました。



「学び合い」はチームワークの要。互いに学び合う姿は残していきたい大切な文化の様に思います。

そんな姿からは「フィードバック」をする役割には「教

えよう、育てよう、分かれよう」とするのではなく、「相手から学ぼう、相手の良いところを真似してみよう」という「相手が安心して存分に熱中できるように信じて見守るう」とする姿勢が大切なのだ

フィードバックを行う際の視点

- ◆フィードバックの役割
「相手が安心して、おもいきってやれるように、信じて後押ししてあげる役割」
- ◆フィードバックをする際に大切にすること
・指摘や指導ではなくその人から自らが学ぶ姿勢でいること
・そもそもその人は十分に頑張っている、やっているという前提で相手を見ること
・その人の足りないところよりも、あるところを見ること
・その人の良いところを伝えてあげること
・物事をポジティブに見てつたえてあげること
・一見悪いものも福に転じる気持ちでつたえてあげること
・今も十分だけれども、ここをこうしたらもっと良くなるよと伝えてあげること

自分たちが目指す保育の姿は大人同士の間でも同じことですね。

フィードバックとは

保護者面談の工夫

ミマモリングソフトを活用して頂いているある園では、「発達の特徴」のコメント欄に、保護者と面談で話した内容を書き残していました。以前はノートに面談内容を書き残していたそうですが、入園から卒園まで一人ひとりの発達を記録するミマモリングソフトの中に、保護者との面談内容も書き残しておくことで、前年にどういった内容の面談をしたかなど、情報共有が図れるということで、コメント欄を活用するようになったそうです。

また、他のクラスの先生が保護者の方とどのような話を

しているか等、特にはじめて面談をする先生方にとって、不安や緊張を感じるものです。そこで、面談前にどうしたら子どもたちの発達を分かりやすく伝えられるかという観点の先生役と、どんなことを聞きたいかという観点の保護者役に分かれて、先生同士でのロールプレイングを行っているそうです。また面談の当日には、ソフトの「育ちのまとめ」の資料を渡していると言います。

ミマモリングソフトの活用から、子どもたちの発達を見守る実践事例を教えてください。



一人ひとりの発達を記録する『ミマモリングソフトウェア』



「発達の特徴」のコメント欄に保護者とのやり取りを記入

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

働き方改革



当日はお天気にも恵まれ、幔幕もかけてまさに晴れ姿！

先日「聴福庵」でプレスリリースが行われました。沢山の方々のご協力のもと、様々な準備を積み重ね、いざ当日を迎えてみると「聴福庵」の晴れ姿がとても誇らしく…。

市長や県庁の方々、各社報道機関の方々、応援して下さる関係者の皆様が「聴福庵」に入ってこられる姿を見て、本当に「家が喜んでいようように感じました。そして、3年半かけて古民家を再生してきた想い出は勿論、それ以前から、東京オフィ

共有できる場

弊社では、先月のお盆期間中に「夏期実践休暇」を頂きました。単なる「夏期休暇」とするのではなく、テーマを設けて過ごしたり、日頃「やりたい」と心に浮かびながらも時間がなくてなかなかできなかったことなどにも取り組めるよう、6年前より「夏期実践休暇」と名称も変えて過ごしていることもあり、休み明けにはそれぞれがどんな休暇を過ごしたか、何を感じ学んだかなどを皆で共有する時間も設けました。

それぞれの楽しい話の中にも、私たちクルーの高齢化も影響してか？！

スでも試行錯誤しながら「暮らし」を取り入れ働いてきたことなどが思い出され、そんなひとつひとつが繋がったの「今」であることも実感できるとても感慨深い一日になりました。

「子どもたちに残していきたい未来・社会」を考えた時、それを誰かが作るのを待つのも、今の社会への批判や評論をするのでもなく、自分たちでできることを積み重ねていくことこそが主体的で能動的な本来の働き方や生き方の改革であるように感じます。誰かに変えてもらったり、変えろと声を高々に上げるのではなく、自分たちが社会の変革者であるうと自覚し続け磨き続けることを大切に歩んでいきたいと思っています。



プレスリリース内容は
こちらから！

お墓問題、お寺問題、空き家問題など、よく耳にする社会問題も浮き彫りになり、そんな話に共感が重なったり「いつかそんなことも起きるのか」と考えさせられたりする時間にも。そして改めて、こんな風に共有・共感できる、学び合える仲間がいることの豊かさ、ありがたさを感じる機会にもなりました。

チームで働こうとしているからこそ、個人の体験にとどめずに、振り返り共有できる場をつくることの重要性を改めて感じます。



「聴福庵」でもお盆をテーマに
室礼を行いました。

一期一会庵

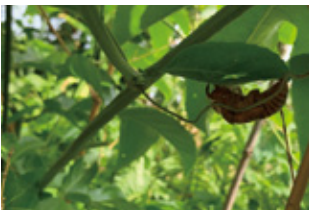
本物の美味しさとは

先日、聴福庵で鮎の炭火焼きを行いました。時間をかけじっくりと弱火の備長炭で焼き上げる鮎は格別で薫りも味も見事なものでした。そもそもこの「弱火でじっくり」というのは、古代からある調理法の一つです。昔は、縄文土器の中に食べ物を入れそれを蒸し焼きにしたり、煮込んだりして料理をしていました。大切な食材や食料を焦がしたりダメにしたりすることのないよう「時間をかけてじっくり」と弱火で調理したのでしょうか。この弱火というものは、素材の旨味や持ち味を発揮する仕組みとしてとても効果があるように思います。備長炭でも、弱くなってきた炭火で調理すると深くて繊細な味わいが出てきますし、井戸水をじっくりと弱火で沸かすととも言えない円やかさが出てきます。現代では「じっくりと時間をかける」ことを排除した料理法ばかりが増えてきました。本来は、時間をかけるといいものもまた「美味しい」に繋がる大切な要素であったはずですが、しかし、時間をかけずに美味しいとい

うものが優先されると、料理法は強火で早くになったり、調味料や味付けばかりのノウハウが増える一方で舌先三寸を誤魔化して美味しそうな料理を美味しいものであると認識させたりもします。私たちが美味しいと感じるのは、五感で味わう時。目で見て、においを嗅いで、触感を味わうという具合に全ての器官を全稼働させていますが、今は時間がないからと、見た目ばかりにこだわらずで食べているような具合です。そのうち、カロリー計算された栄養ドリンクや簡易的な補助食品ばかりをとるようになり、時間をかけないことが最良とされている現代の価値観の中では、本来の美味しいものに出会いくにくいのかもかもしれません。食材が少なく、食料が足らず、また旬が短いからこそ、私たちはそれを大切に美味しくいただくことで食欲だけを満たすのではなく心の豊かさをも満たしてしまいました。満足するというのは、体だけではなく心と五感を豊かに味わう時にこそ得られるものであり、命をいただく時、本物の美味しいとなったのでしょうか。

今のようになんでも食べられる時代だからこそ、本物の美味しいを子どもたちと分かち合えるよう、丁寧に暮らしを紡いでいきたいと思っています。

編集後記



最近の猛暑には蝉もビックリ？！

関東では朝晩の涼しさから秋の訪れを感じるようになりましたが、夏の終わりを惜しむかのような蝉の鳴き声もまだまだ聞こえます。この夏、蝉の寿命が一週間だけという定説を覆すニュースを耳にしました。ある高校生の研究により、どの種類の蝉でも一週間以上生きることが証明され、さらには一ヶ月以上生きるものもいたそう

です。どうやら人間が飼育した場合は一週間ほどで命尽きてしまうそう…そこら広まった話なのだから。人間の手によって長生きするものもあれば、寿命を早めてしまうものも沢山あり、やはり自然には逆らえないと感じます。ひと夏を精一杯生きる蝉のように、私たちも一日一日を大切にしていきたいと思います。（眞田由莉）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます